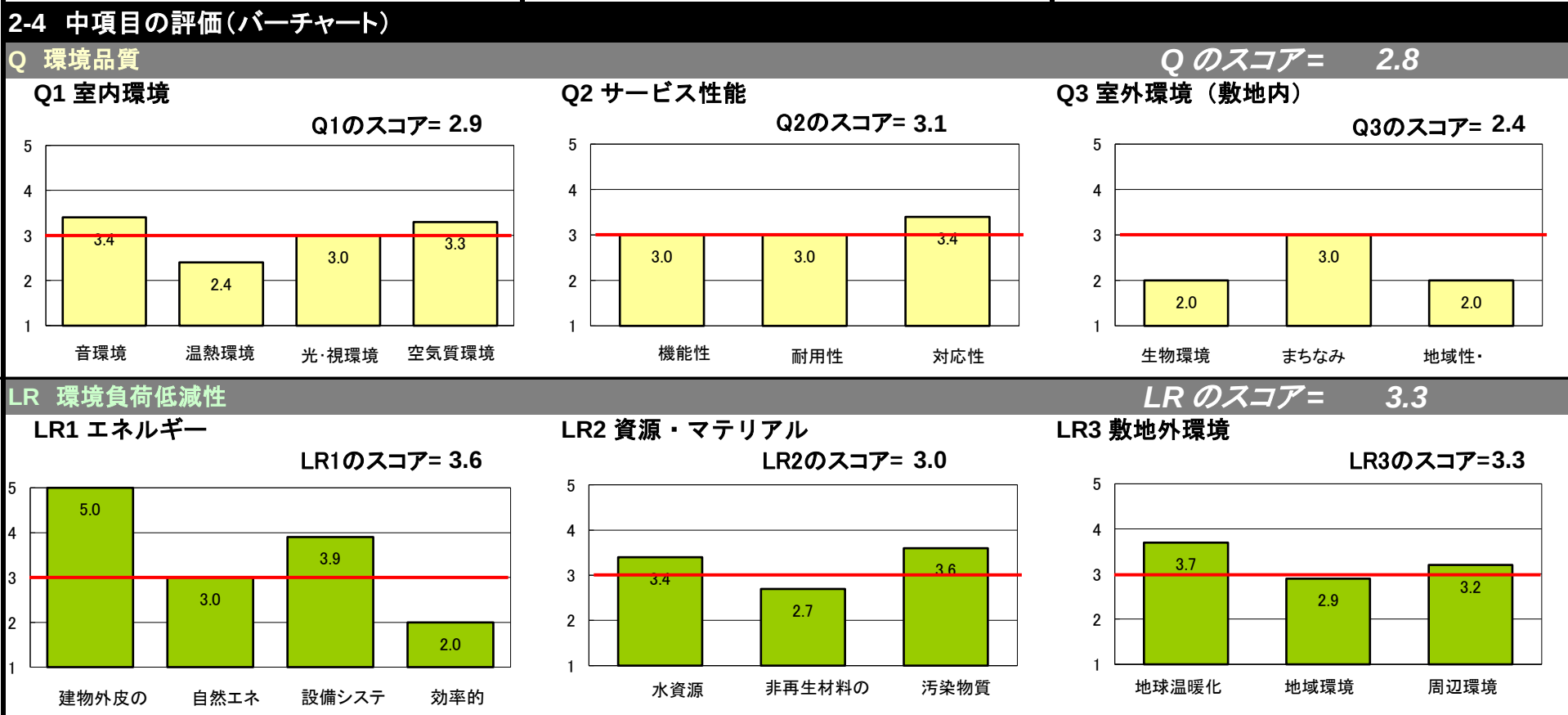
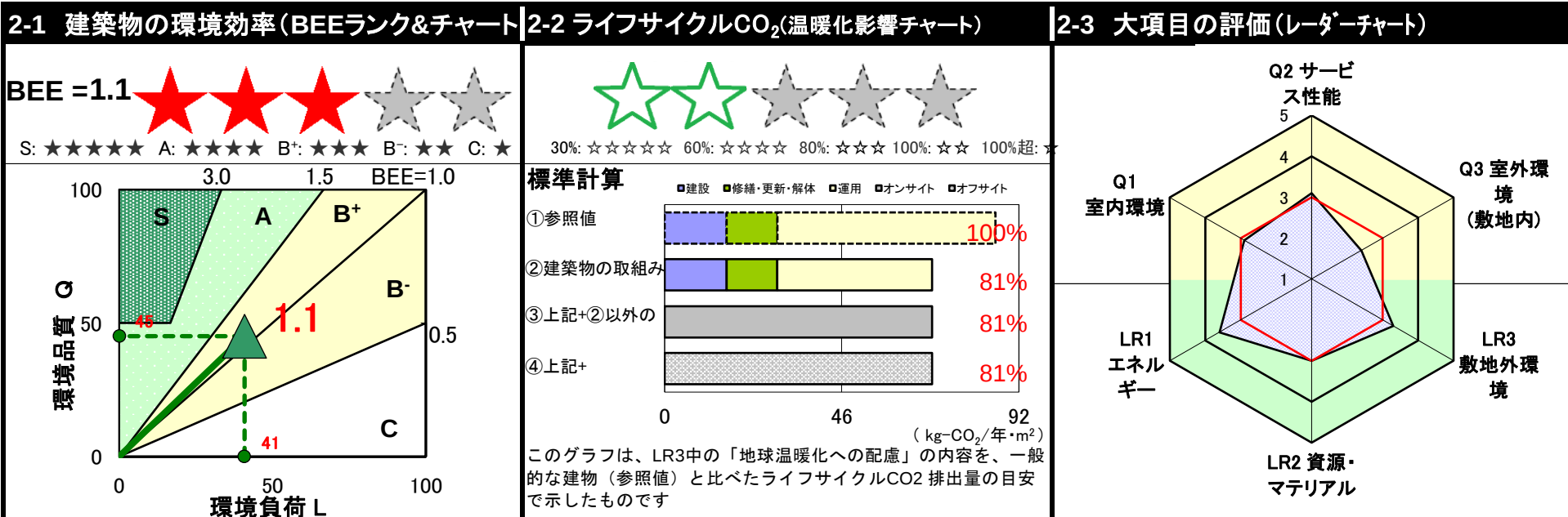


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新川工業株式会社 新工場	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県大府市北崎町井田236番1 他19筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	150 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年8月30日
敷地面積	9,582 m ²	作成者	小室 武
建築面積	4,261 m ²	確認日	2021年8月30日
延床面積	7,323 m ²	確認者	小室 武



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
3.7	2.0	26.1 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	<外装材に使用した地域性のある材料>
2.9	1.0	なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境						0.32			-	2.9
1 音環境				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		3.0	-	
1.2 遮音				0.4	4.2	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能			T-2	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40		3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-	
1.3 吸音				-	3.0	0.20		3.0	-	
2 温熱環境				0.3	2.4	0.35	-	-	-	2.4
2.1 室温制御				0.5	2.6	0.50	-	-	-	
1 室温				3.0	3.0	0.38		3.0	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25		3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	2.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-	
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
3.1 昼光利用				0.3	3.6	0.30	-	-	-	
1 昼光率			3階事務所 昼光率2.253%	3.0	4.0	0.60		3.0	-	
2 方位別開口				-	-	-		3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		3.0	-	
3.3 照度				3.0	2.0	0.15		3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	-	
4 空気質環境				0.2	3.3	0.25	-	-	-	3.3
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を全面的に使用 ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量の少ない建材を全面的に使用	3.0	4.0	1.00		3.0	-	
4.2 換気				0.3	2.3	0.30	-	-	-	
1 換気量				3.0	3.0	0.33		3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33		3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	1.0	0.33		3.0	-	
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-	3.1
1 機能性				0.4	3.0	0.40	-	-	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.6	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.33		3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	2.0	0.33		3.0	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	0.33		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	1.0	0.33		3.0	-	
2 リフレッシュスペース			2階に会議・休憩・食堂スペース200㎡(自販機・給茶機有り)	3.0	5.0	0.33		-	-	
3 内装計画				3.0	3.0	0.33		-	-	
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			防汚性の高い内装材使用 壁面の凹凸は極力少ない 維持管理方法の異なる床材近接無し 水切り設置	3.0	4.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.2	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上り材の補修必要間隔		②		-	2.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上り材の更新必要間隔			耐用年数の長い材料を使用 : 床フェロコン、天井ジブトーン(25年)	-	5.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用しEは不使用	-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備		②		3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20		-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性					0.2	3.4	0.29				3.4
3.1 空間のゆとり			②	工場部分4.75m 壁長さ比率0.083	0.3	4.6	0.31				
1	階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-		
2	空間の形状・自由さ				4.0	0.40		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38			-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.17			-	
2	給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17			-	
3	電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11			-	
4	通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11			-	
5	設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22			-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.38		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③				2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④				3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④				2.0	0.50		-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-			-	3.3
LR1 エネルギー							-	0.40		-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.8		3.0	5.0	0.22		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.12		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.71		3.0	3.9	0.46		-	-	3.9
4 効率的運用					0.2	2.0	0.20		-	-	2.0
集合住宅以外の評価					1.0	2.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	1.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30		-	3.0
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水				節水型便器、手洗いに自動水栓	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63		-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減		② 独自				2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-			3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-			3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	分別が容易(躯体+軽鉄+仕上)	再利用(OAフロア 可動間仕切)	3.0	4.0	0.24		-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-	-	
1	消火剤					-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			断熱材はすべてグラスウール(発泡プラスチック系は使用無し)		5.0	0.50		-	-	
3	冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境							-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率81%			3.7	0.33		-	-	3.7
2 地域環境への配慮					0.3	2.9	0.33		-	-	2.9
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.7	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自				3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		適切な量の駐車スペースと管理車両駐車可能スペース、出入口巾10m		4.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自				3.0	0.50		-	-	
2	振動	独自				3.0	0.50		-	-	
3	悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制					3.0	-		-	-	
3	日照阻害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たす 屋外広告物照明無し		5.0	0.70		-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	2.0
③ 敷地内の緑化				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:26.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア＝重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)新川工業株式会社 新工場

計画上の配慮事項	
総合	事務所エリアは昼光率を高くし、十分な広さのリフレッシュスペースを設けるなど、従業員の作業環境に配慮した。また、敷地外周部の法面を利用して緑地を設け、外部環境に配慮した。
Q1 室内環境	事務所エリアは昼光率を確保し、空気環境に配慮した材料(F☆☆☆☆)を全面的に使用するなど、室内環境に配慮した。
Q2 サービス性能	自動販売機や給茶器を設置した十分な広さの休憩スペースを確保し、従業員がリフレッシュできるようにした。また、更新間隔の長い設備配管の採用し、建物部材の耐用年数に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地の外周に設けた緑地により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LED照明等による設備システムの高効率化によりBEIm=0.71としている。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器や自動水栓の採用による水資源保護への配慮、解体時には、分別が容易な工法、再利用可能なユニット部材を採用している。
LR3 敷地外環境	敷地内に駐車スペースを確保し、十分な広さの車両出入口を設けることにより、周辺の交通状況に配慮している。
その他	特になし